

研究課題(テーマ)		「全教員によるブックガイド」を通じた主体的な読書活動と文書作成技術の育成	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	教養教育センター	教授	平野嘉孝
	同上 同上		総合科目教員(赤本活用) 教養教育センター全教員(赤本作成)
研究結果の概要			
<p>本教育プログラムは2本の柱から構成されていた。教養教育センター全教員による推薦図書ガイドブック(通称『赤本』)の作成と、総合科目担当教員が中心となり、赤本を活用し富山県立大生のコミュニケーション能力を向上させるため様々な試みを行うこと、である。</p> <p>まず、<u> </u>について。豊かな人間形成のためには、多彩で豊富な人生経験が欠かせない。人生経験は実世界での実体験だけではない。「良質なテキスト情報(=図書)」に触れることから得られる。一方で、画一的あるいは選者の顔の見えない「図書紹介」では、学生たちの意欲を刺激することにつながりにくい。そこで、本教育プログラムでは本学固有の図書館の顔(本学教員の個性)を有効に利用した。多様な専門領域に属する教養教育センター全教員による推薦図書ガイドブックを冊子体で作成することで、この最初の柱の実現を試みた。小説のみならず、数理科学分野・語学領域関連の各図書、さらに異文化理解にかかわるノンフィクションなど、多岐にわたる図書の推薦文が収録されている。<u> </u>に関して、本教育プログラムは当初の目的を達成したといえよう。</p> <p>次に<u> </u>について。今回の研究費で印刷された推薦図書ガイドブック(赤本)は、新任教員などの推薦文が加わり第6版となった。したがって、今回の活用事例では、これまでの在籍教員により編まれていた第5版を利用する形式で実施された。これまでの赤本は、作成されたのち富山県立大の、工学部新入生および看護学部新入生に配付されてきたが、活用方法については学生各自の取り組みにゆだねられてきた。今回の本教育プログラムでは、この点を一歩進め、総合科目担当教員を中心に赤本を活用し、様々な取り組みを試みることにした。取り組み事例としては、1)夏季休暇前に赤本収録の図書を中心に読書をし、休暇明けに教養ゼミ構成員に、図書の内容紹介プレゼンを行うビブリオバトル形式に挑戦した事例や、2)赤本収録内の図書から1冊選定し冬季休暇の課題として、紹介文レポートを作成させ提出させた事例、3)後期教養ゼミ内で、赤本収録図書の中から1冊選定させ、新たな図書紹介文の作成に取り組みさせた事例、などが報告された。</p> <p>読書に誘う効果としては、赤本が手元にあることで学生が図書を選定する手掛かりとなると指摘があったが、読書量が増えているか否かについては、より長期的に取り組む必要があるとの報告もある。図書の紹介文作成などの文章作成技術については、添削方法なども含め、今後も試行・改善が必要であるとの声が多数を占めた。引き続き、教養教育センター総合科目教員を中心に取り組む予定である。</p>			
今後の展開			
<p>赤本を活用した、読書体験の豊富化、文章作成(学生による新たな図書紹介文の作成)、学生同士による文章添削方法の確立など、上述の<u> </u>に関する取り組みは、今回印刷された第6版を利用し、総合科目教員を中心に今後さらに試行を重ねていく必要がある。</p>			